

主要業績一覧

[研究論文]

職業技術教育における理論と実技との融合に関する実験的研究、1976年1月、日本教育方法学会研究紀要第1巻。

職業訓練カリキュラムの諸問題とその改善のための技術試論、1977年3月、職業訓練研究第1巻。

企業内高卒養成訓練のカリキュラムに関する一考察、1979年3月、職業訓練研究第3巻。

公共職業訓練の成立過程に関する研究(第2部)、1980年3月、職業訓練研究第4巻。

日華事変期における公共職業訓練について(佐々木輝雄氏との共著)、1981年3月、職業訓練研究第5巻。

戦前における職業訓練指導員の養成について、1981年3月、職業訓練大学校紀要第10号・B。

技能者養成に関する日本工業協会の役割、1982年8月、日本産業教育学会研究紀要第12号。

機械工養成所・訓育所の成立過程に関する研究、1985年3月、職業訓練大学校紀要第14号・B。

日本工業協会の技能者養成活動、1985年9月、教育学研究第52巻第3号。

公共職業訓練校のカリキュラム問題(山崎昌甫氏との共著)、1986年7月、障害者問題研究第45号。

公共職業訓練施設再編成の実状、1989年3月、職業訓練研究第7巻。

労働者の職業技術教育の課題、1990年9月、教育学研究第57巻第3号。

職業訓練に関する文献研究(I)(村上有慶氏との共著)、1991年3月、職業訓練研究第9巻。

「職業能力開発促進法」の改正と公共職業訓練の再編成、1993年1月、技術教育研究第41号。

職業訓練指導員養成体系の再編成に関する試論(村瀬勉氏との共著)、1994年3月、職業能力開発研究第12巻。

職業能力開発の今日的課題、1995年1月、技術教育研究第45号。

職業訓練と教育をめぐる論点考、1995年3月、職業能力開発研究第13巻。

[研究報告書]

総高訓電気機器科カリキュラムの実状と問題点、1973年10月、職業訓練大学校調査研究報告書第32号。

カリキュラム改善の方法理論、1976年3月、職業訓練大学校調査研究資料第18号。

公共職業訓練校電気科カリキュラムの実験研究、1977年3月、職業訓練大学校調査研究報告書第40号。

向上訓練受講者の実態に関する調査結果報告書(佐々木輝雄氏等との共著)、1982年11月、職業訓練研究センター調査研究資料第41号。

戦後職業訓練のカリキュラム基準に関する研究、1984年3月、職業訓練大学校指導科報告シリーズNo.2。

主要業績一覧

成人職業教育の再編に関する研究（倉内史郎編著、「公共職業訓練の再編をめぐって」を分担）、1988年3月、文部省科研費総合研究A報告書。

「ブロック訓練」による能力再開発訓練の展開（岩手技能開発センターとの共編）、1989年3月、職業訓練大学校指導科報告シリーズNo.8。

「NC機作業者のための加工技術」コースの展開（小原哲郎氏等との共著）、1989年3月、職業訓練研究センター調査研究報告書第52号。

「NC機作業者のための切削加工技術」コースのパッケージ化（小原哲郎氏等との共著）、1990年3月、職業訓練研究センター調査研究報告書第54号。

わが国における生涯学習の現状と課題（川野辺敏編著、「公共職業訓練の再編成について」を分担）、1991年3月、国立教育研究所。

職業訓練カリキュラムの歴史的研究、1993年1月、指導学科報告シリーズNo.12。

学校の技術・職業教育と学校外の職業教育・訓練の関係についての国際比較研究（佐々木享編著、「日本の職業訓練関係用語に関する覚書」を分担）、1994年3月、文部省科研費総合研究A報告書。

[研究資料集]

職業訓練関係資料集（I）《大正6年～昭和12年》（佐々木輝雄氏との共編）、1979年3月、職業訓練大学校調査研究資料第30号。

教科方法研究資料〔I〕（原正敏氏、村中兼松氏の論考の編集）、1981年3月、職業訓練大学校調査研究資料第34号。

職業訓練関係資料集（II）《昭和13年～昭和16年》（上・下）（佐々木輝雄氏との共編）、1982年3月、職業訓練大学校調査研究資料第36号。

教科方法教科方法研究資料〔II〕（諸沢蕭氏、矢越幸穂氏の論考の編集）、1983年3月、職業訓練大学校調査研究資料第44号。

教科方法研究資料〔III〕（長谷川淳氏の論考の編集）、1984年3月、職業訓練大学校調査研究資料第48号。

[著書]

わが国の職業訓練カリキュラム（宗像元介氏序）、1986年10月、燭台舎。

教育理念（中島直忠編著、「今日の職業教育」を分担）、1988年8月、第一法規出版。

現代職業能力開発セミナー（早川宗八郎氏序、「職業訓練の歴史と課題」を分担）、平成3年6月、雇用問題研究会。

生涯学習と社会教育の革新（元木健・小川剛編著、「生涯学習と職業訓練」を分担）、平成3年7月、亜紀書房。

日本の生涯学習（川野辺敏編著、「ホワイトカラーのための職業能力開発」を分担）、1995年3月、エムティ出版。

謝 辞

論文の報告を終わるにあたり、最後に一言お礼を申し上げます。もとより浅学非才な筆者がこのような学位論文を仕上げることができましたのは、実に多くの方々のご指導とご援助を戴くことができたためですが、このことに関して厚くお礼を申し上げます。

まず審査の主査を務めて戴いた東京工業大学の山崎正勝教授には、ご多忙な中懇切なご指導を賜ったことはいうまでもありません。また、副査を務めて戴いた矢野真和教授、木本忠昭教授、牟田博光教授および佐藤俊樹助教授には貴重なご助言を賜って本論文を完成することができました。審査下さった以上の先生方に深くお礼申し上げます。

そして、職業訓練という既存の学問分野からは評価しにくい筆者の研究を学位論文にまとめるようにご助言下さった職業能力開発大学の早川宗八郎校長に厚くお礼申し上げます。

なお、筆者を研究者の道にご指導戴いた宗像元介元職業訓練研究センター所長、研究のあり方を豊富な経験を通してご助言下さった木村力雄元研究員（現東北大学教授）、本研究の少ない部分において直接的な研究指導者として、あるいは共同研究者として筆者を導いて下さった故佐々木輝雄教授に深くお礼申し上げます。また、本歴史的研究の先がけとなった職業訓練カリキュラムに関する実験的研究を進めるに当たってご指導戴いた故長谷川淳先生（元東京工業大学教授）、元木健先生（元大阪大学教授）および山崎昌甫先生（元職業訓練大学校教授）に厚くお礼申し上げます。それまでの研究をまとめた拙著『わが国の職業訓練カリキュラム－課題と方法－』の書評（『教育学研究第54巻第4号』、1987年12月）において貴重なご意見を戴いた佐々木享先生（名古屋大学教授）にお礼申し上げます。さらに鈴木建夫教授（現北海道職業訓練短期大学校校長）には本論文の構成に関してご助言戴きましたことにお礼申し上げます。

本論文を仕上げるまでには、その他数限りないの方々にお世話になりましたが、その中でも、石川俊雄元主任研究員、職業能力開発大学の村瀬勉前研究課程部長・教授（現中部職業能力開発促進センター所長）、見城尚志教授・研究課程部長、高山尚久助教授、山本和直助教授、永田雅美助教授及び久本憲夫京都大学助教授に種々ご鞭撻を戴きましたことに対してお礼申し上げます。また、日頃よりご援助を戴いた旧調査研究部、前職業訓練研究センター及び指導学科の諸氏に対しお礼申し上げます。最後に、本論文の論旨の少ない部分は、筆者の拙い講義を受講して戴いた研修生や学生との議論の過程で構築したのですが、これらの受講生にお礼を述べます。

1995年2月16日

